

■使用評価マニュアル: 北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト: CASBEE北九州_2016(v2.1)

1 建物概要

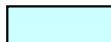
建物名称	(仮称) ハイコート浅野Ⅱ	BEE	1	BEEランク	B+	★★★
------	---------------	-----	---	--------	----	-----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.4 /5		ふつう 
2 地球温暖化対策の推進	3.8 /5		ふつう 
3 豊かな自然環境の確保	2.0 /5		がんばろう 
4 高齢社会への対応	3.0 /5		ふつう 
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)	評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上
			がんばろう 3 点未満

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版	使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v.2.1)
1 循環型社会への貢献	スコア平均 3.4
リサイクルに関する配慮	長寿命化に関する配慮
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 3.5 Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数 Q2/ 3 対応性・更新性
スコア 3.4 スコア 3.4	
躯体材料以外のリサイクル材を採用している。 分別が容易な施工方法の採用により、資源の大量消費を防ぐようにしている。	耐久性、補修性に優れた材料を使用するよう努めている。将来の用途変更可能性などを考慮している。
2 地球温暖化対策の推進	スコア平均 3.8
省エネ・省資源に関する配慮	節水に関する配慮
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3.6 LR2/ 1.1 節水
スコア 4	
ライフサイクルCO2排出率: 84%	節水器具を採用し、水資源の保護に努めている。
3 豊かな自然環境の確保	スコア平均 2.0
生態系保全に関する配慮	緑化に関する配慮
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 1 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善
	スコア 3 スコア 2
低木・地被を植栽している。	空地率=50%以上、水平投影面積率=20%以上確保している。
4 高齢社会への対応	スコア平均 3.0
バリアフリーに関する配慮	主な指標
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級
スコア 3	3
「福岡県福祉のまちづくり条例」の基準に適合している。	建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅:BEIm値、住宅 BEI値
	0.89
	外構緑化指數 建物緑化指數
	5.03 % 0 %



: 入力欄

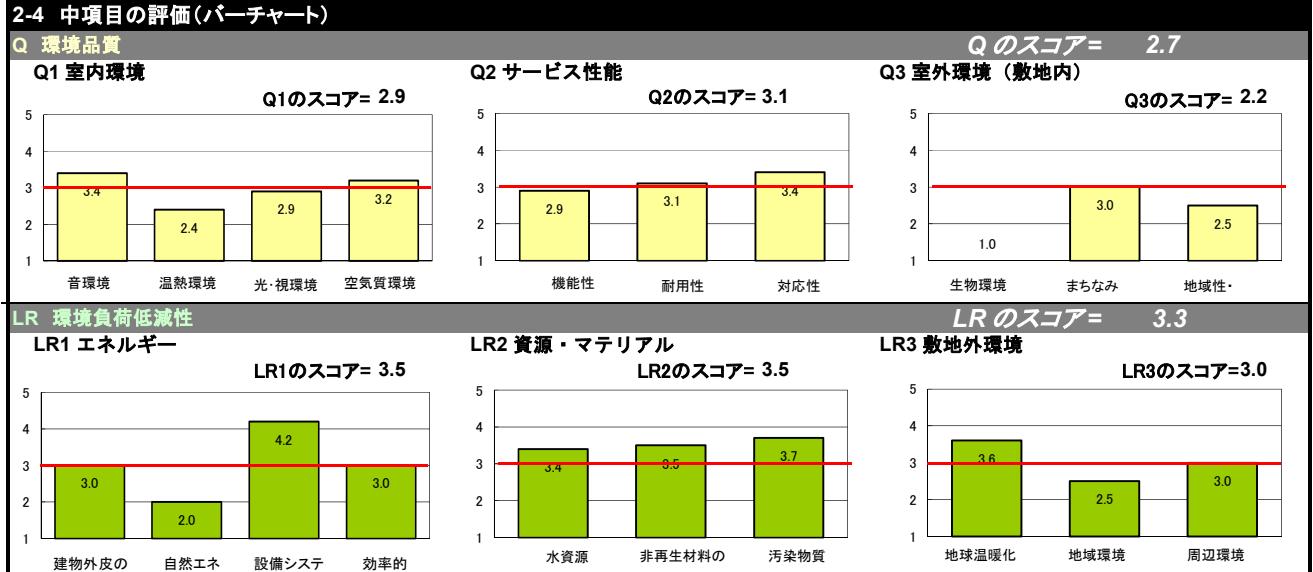
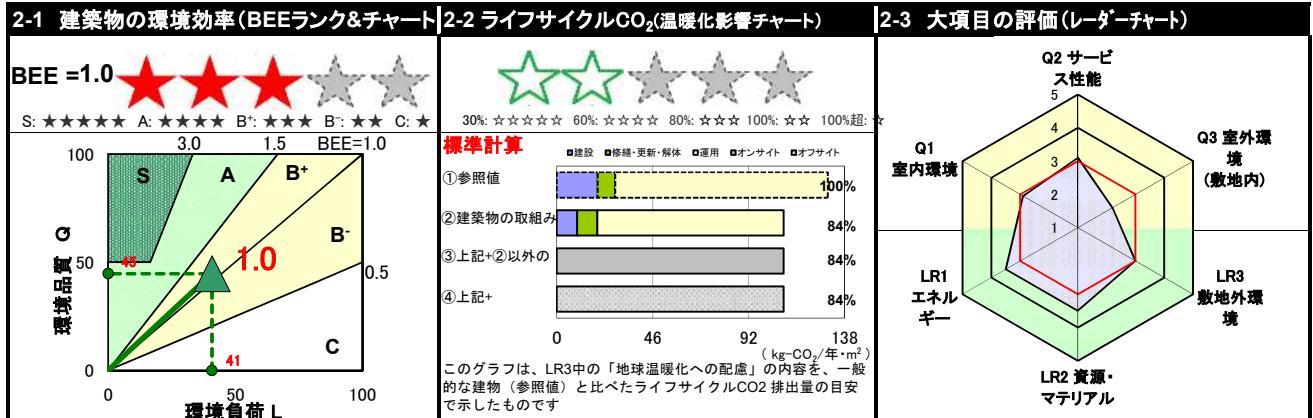


: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) ハイコート浅野Ⅱ	階数	地上13F
建設地	北九州市小倉北区浅野3丁目2-82、2-678の一部	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	150人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年8月 予定	評価の実施日	2018年5月16日
敷地面積	1,181 m ²	作成者	(有)I・O設計室
建築面積	571 m ²	確認日	
延床面積	6,130 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
省エネルギーや耐久性に配慮して、地球温暖化防止・ヒートアイランド現象の緩和を図っている。		特になし
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
断熱性能の高い外壁材の選択、屋根裏の断熱材設置等により空調負荷の低減に配慮している。遮音性能の優れた建材を使用し、住戸のプライバシーに配慮している。	耐用年数の長い永い材料を使用し、建物が長期間使用できるよう配慮している。	敷地周囲に緑地を効果的に配置し、植栽に親しむことができるよう配慮している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LED照明や高効率給湯器を採用し省エネルギーを図っている。	節水器具の利用により、節水を図っている。分別が容易な施工方法の採用により、資源の大量消費を防ぐようにしている。	ライフサイクルCO ₂ を削減し、地球温暖化防止を図っている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用・改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版 (仮称)ハイコート浅野Ⅱ		■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版 欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)						
スコアシート 実施設計段階								
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								2.7
Q1 室内環境					0.40		-	2.9
1 音環境	1.1 室内騒音レベル			-	0.15	3.4	1.00	3.4
	1.2 遮音			-	-	3.0	0.50	
	1 開口部遮音性能			-	-	3.9	0.50	
	2 界壁遮音性能	D数の予測式より、Dr=50以上		-	-	3.0	0.30	
	3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	乾式二重床: Lr=40		-	-	4.0	0.30	
	4 界床遮音性能(重量衝撃源)	乾式二重床: Lr=50		-	-	5.0	0.20	
	1.3 吸音			-	-	4.0	0.20	
				-	-	-	-	
				-	0.35	2.4	1.00	2.4
	2.1 室温制御			-	-	3.0	0.50	
	1 室温			-	-	3.0	0.63	
	2 外皮性能			-	-	3.0	0.38	
	3 ゾーン別制御性			-	-	-	-	
2 温熱環境	2.2 湿度制御			-	-	3.0	0.20	
	2.3 空調方式			-	-	1.0	0.30	
	3 光・視環境			3.0	0.25	2.9	1.00	2.9
	3.1 昼光利用			3.0	1.00	1.9	0.50	
	1 昼光率			-	-	2.0	0.50	
	2 方位別開口			-	-	1.0	0.30	
	3 昼光利用設備			3.0	1.00	3.0	0.20	
	3.2 グレア対策	庇+カーテンによる昼光制御を採用		-	-	4.0	0.50	
	1 昼光制御			-	-	4.0	1.00	
	3.3 照度			-	-	-	-	
3 空気質環境	3.4 照明制御			-	-	-	-	
	4.1 発生源対策			-	0.25	3.2	1.00	3.2
	1 化学汚染物質			-	-	3.0	0.63	
	4.2 換気			-	-	3.0	1.00	
	1 換気量	基準法の1.2倍以上の換気量を確保		-	-	3.6	0.38	
	2 自然換気性能	自然換気有効開口面積が床面積の1/8以上を確保		-	-	4.0	0.33	
	3 取り入れ外気への配慮			-	-	4.0	0.33	
	4.3 運用管理			-	-	3.0	0.33	
	1 CO ₂ の監視			-	-	-	-	
	2 喫煙の制御			-	-	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.1
1 機能性	1.1 機能性・使いやすさ			2.4	0.40	3.2	1.00	2.9
	1 広さ・収納性			3.0	0.40	4.0	0.60	
	2 高度情報通信設備対応	各住戸で100Mbitクラスのブロードバンドが利用可能		-	-	4.0	1.00	
	3 バリアフリー計画			3.0	1.00	-	-	
	1.2 心理性・快適性			1.0	0.30	2.0	0.40	
	1 広さ感・景観			-	-	3.0	0.50	
	2 リフレッシュスペース			1.0	1.00	1.0	0.50	
	3 内装計画			3.0	0.30	-	-	
	1.3 維持管理			3.0	0.50	-	-	
	1 維持管理に配慮した設計			3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性	2 維持管理用機能の確保			3.0	0.50	-	-	
	2.1 耐震・免震・制震・制振			3.1	0.30	-	-	3.1
	1 耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.50	-	-	
	2 免震・制震・制振性能			3.0	0.80	-	-	
	2.2 部品・部材の耐用年数	品確法(劣化対策等級): 等級2		3.4	0.20	-	-	
	1 軸体材料の耐用年数			4.0	0.20	-	-	
	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			3.0	0.20	-	-	
	3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.10	-	-	
	4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.10	-	-	
	5 空調・給排水配管の更新必要間隔	使用量上位3種のうち、2種以上にB以上を使用、Eの使用なし		5.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性	6 主要設備機器の更新必要間隔			2.0	0.20	-	-	
	1 空調・換気設備			3.0	0.20	-	-	
	2 給排水・衛生設備			3.0	0.20	-	-	
	3 電気設備			3.0	0.20	-	-	
	4 機械・配管支持方法			3.0	0.20	-	-	
	5 通信・情報設備			3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性	2.8	0.30	3.8	1.00	3.4
3.1 空間のゆとり	-	-	4.6	0.50	
1 階高のゆとり	(住戸部)基準階階高:3.2m >3.0m	-	5.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ	0.1≤壁長さ比率:0.25<0.3	-	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり	-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性	2.8	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性	3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性	2.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性	3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)	-	0.30	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出	1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性	-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー	-	0.40	-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制	3.0	0.20	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用	2.0	0.10	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化	[BEI][BEIm] = 0.89 高効率機器の採用	4.2	0.50	-	4.2
4 効率的運用	3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価	-	-	-	-	
4.1 モニタリング	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制	-	-	-	-	
集合住宅の評価	3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル	-	0.30	-	-	3.5
1 水資源保護	3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用	3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	3.0	0.70	-	-	
2 雜排水等利用システム導入の有無	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減	3.5	0.60	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減	3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	再生クラッシャラン、再生密粒度アスファルト混合物(路盤材)	4.0	0.20	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避	3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用	3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避	4.0	0.70	-	-	
1 消火剤	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	5.0	0.50	-	-	
3 冷媒	3.0	0.50	-	-	
ODP=0かつGWP=1の発泡断熱材を採用					
LR3 敷地外環境	-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮	2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止	3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	2.0	0.25	-	-	
適切量の駐車・駐輪スペース、荷捌きスペースの確保					
3 周辺環境への配慮	3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止	3.0	0.40	-	-	
1 騒音	3.0	1.00	-	-	
2 振動	-	-	-	-	
3 悪臭	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制	3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制	3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制	3.0	0.30	-	-	
3 日照阻害の抑制	3.0	0.20	-	-	
3.3 光害の抑制	3.0	0.70	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	0.30	-	-	
2 曜光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	